

出張医学教育FD (信州上田医療センター)

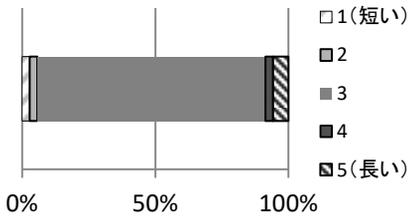
【日 時】 令和元年 10月10日(木)

【参加人数】 61名

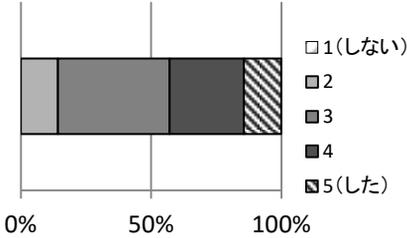
【講 師】 多田 剛

【内 容】 参加型臨床実習のすすめ方

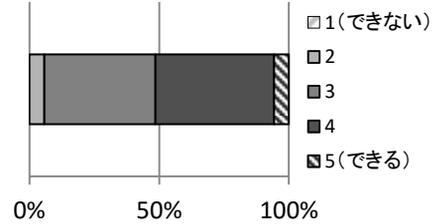
FDの開催時間はいかがでしたか。



FDはニーズにマッチしましたか。



学生の評価ができるようになりますか。



参加者の意見

FDでわかったこと	FDで疑問に残ったこと	ご意見
学生を診療に参加させる	ポートフォリオ 学習レポートを作文形式で書かせる点 行動レポート	カルテの書き方が、特に電子カルテになってから、一定していないように思う。統一することは無理だが、書き方にその科の特性や能力など様々なことが反映される。どう書いたらいいのか、今でも迷って困っている。
on the job trainingに近い形態である	勉強になりました。	勉強になりました。
ポートフォリオ	学生に自主的にできる指示を与えることは分かりましたが、採点などの侵襲的処置に指導Dr. がつかなくてもいいのか。つくとすれば、少ない時間をどうあてるか考える必要があります。	良い実習となるように、行っていきたくと思います。
学生に対する具体的な接し方	特になし	毎年このような機会があればよいなと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
任務を与えるということ	学生ができることとできないこと	
学生診察参加	実臨床の忙しさもあり、なかなか午前8時30分～午後5時15分までの間に学生教育もできないのが実情です。働き方改革もあり、時間外に指導も難しいと思われます。	
国際標準に合わせた実習を行ってゆく必要性		
学生を診療に参加させるチームの一員として対応すること	事故が起こった際の責任の所在については理解できたが、例えば担当患者さんから、学生がつくこと、様々な手技を経験させること(及びトラブルの可能性)について、口頭のみ承諾で良いのか？文書による承諾が必要なのか？についても知りたかったです。	
学生への対応		
課題を与える事。カルテ記載		
学生との接し方、指導の仕方についてやるべきことがわかった。		
たしかに自分も学生のときに任務を与えていただいた方がやりやすかったなと思いました。		
医学教育がずいぶん変わっていることを理解しました。 学生の質が又は同学年の学生が信大の教育において変わってきていることを理解しました。		
学生への対応接し方について。		
学生に診療参加をさせつことの重要性		
学生実習の到達目標をはっきりした。		
学生の一日の実習時間、業務配分について理解できました。		
今の医学教育(昔とのちがい)		
学生への診療への積極的参加		
学生にどこまでやらせて良いのか？について理解できた。		
150通りの実習が始まってから県内での研修者数が増加しているのは興味深かったです。		